

# はまなす通信

野田はまなす会会報 No.63(令和3年9月)

寄稿 会員の声

「野田の思い出」

飯田法子さん

「はまなす会会員になりました。」

保角卓哉さん

野田村の話題

「野田中学校の紹介」

勝部孝行 校長

野田村の風景

表紙：野田村での聖火リレーランナー

山田煌晟さん（広内地区）

16歳（盛岡大学附属高校2年）

「野田中学校のスローガン「野田村の太陽になろう」  
を胸に部活動や様々な活動を頑張っています。  
聖火リレーを通じて村に元気を届けたいです。」

編集 野田はまなす会事務局  
（野田村役場未来づくり推進課）

☎0194-78-2963

発行 野田はまなす会



## コロナ収束後 再会が待ち遠しいです



野田はまなす会  
会長 久慈士郎

コロナ禍のなか皆さん如何お過ごしでしょうか。

昨年1月、国内初の新型コロナウイルス感染者が確認されて以来、今日に至るまでの長引く自粛生活で窮屈な生活を強いられていた事と存じます。

今年になってもコロナ感染の猛威は一向に衰えず一都三県には緊急事態宣言が繰返し発令されるなど一堂に会しての役員会議等の開催が躊躇される状況であり、会の活動にも支障をきたしております。

そのような状況下で2020東京五輪が開催されました。菅首相は1964五輪当時活躍したバレーボールの「東洋の魔女」、マラソンの「アベベ」・柔道の「ヘーシンク」など懐かしい思い出として話されましたが、自分も同年代として57年前の高校1年生当時を懐かしく思い出しま

した。今回は無観客ということが高揚感に欠けた面もありましたがそれでも特に、日本のお家芸である柔道日本勢の活躍には目を見張るものがありました。皆さんはどの様に楽しまれ観戦されたでしょうか。

最近の気候変動は著しく国内、海外問わず多くの豪雨災害が発生し、直近では熱海市での土石流災害で多くの人命・家屋に甚大な被害をもたらしました。今年も連日の猛暑が続く夏から秋にかけて台風・豪雨・コロナとすべてが油断大敵であります。

我々には決して忘れることの出来ない国内観測史上最大の震災、3.11東日本大震災から10年の節目の年を向かえました。

野田村の復興事業計画も全て完了したとのことですが、コロナ禍は経済活動に多大な影響を及ぼしているとのこと。我々はいつも被災を忘れず、尚一層の支援で皆様の熱い想いを、「ふるさと野田村」に届けて頂くために産直の利用、ふるさと納税にご協力願えれば幸いです。

被災地復興の目玉として計画された、三陸沿岸道路（八戸～仙台359km）も久慈・普代間の25km部分を除き全て開通して

## 野田の思い出



飯田 法子  
(旧姓 高橋)  
玉鉾地区出身  
野田中昭和38年卒

私は昭和35年10月、中学一年生の秋に、秋田市の中学校から野田中学校に転校してきました。父が玉川鉾山に勤めていたからです。

初めて父と一緒に山道を歩いて野田中学校へ登校した日、校舎の窓から多くの生徒達が私と父を見ていて、「これから友達ができるだろうか」と心細く思ったものです。私は、1年A組に転入し、担任は 高橋秀男先生でした。2年C組の時は、鈴木良子先生で、3年の時は遠藤清志先生でした。

玉川から野田中学校までの山道はずいぶん遠かったように思います。1年の時は毎日、鉾山の前を通って、山道を通学しました。2年生の途中からは、「野田玉川」のバス停からバスに乗り、城内の「野田郵便局前」のバス停で降りて、そこから歩いて通学していました。帰る時、バスの待ち時間がありすぎるときは、海沿いのバス通りを約1時間か

おり、当区間も年内開通を目指し急ピッチで進められているとの事です。

三陸沿岸道路の全線開通は沿岸地域の観光・物流によって経済効果に大いに期待出来るものと信じております。コロナ感染も沈静化の折には利用してみたいものです。

今後、暫くは気を緩めず、コロナ感染予防、豪雨災害に細心の注意を払いお身体大切に皆さんと再会出来ること祈願しております。

## 令和3年度・令和4年度 野田はまなす会 「総会及びふるさと交流会」のお知らせ

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、関東圏に「緊急事態宣言」が発令されました。やむを得ず、一同に会しての役員会に変えて、正副会長、幹事長の電話会議により、下記のように決めましたのでお知らせいたします。ご了承ください。

なお、令和4年度の総会・交流会も、新型コロナウイルス感染状況によっては、5月の開催ができない場合もあります。開催の最終判断は、2月発行の「はまなす通信 No.64号」でお知らせします。

記

- 令和3年度の総会及びふるさと交流会（令和3年11月28日（日）開催予定）は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とする。
- 令和4年度の総会及びふるさと交流会は開催予定とする。  
日時 令和4年5月8日（日） 午後1時から  
会場 「ホテル ラングウッド」 ※例年と会場が違いますので、ご注意ください。  
最寄り駅 JR日暮里駅南口 徒歩2分  
会費 交流会費 7,500円・年会費 3,000円 ※中・高・大学等新卒者は無料招待  
問い合わせ 野田はまなす会  
事務局 野田村役場未来づくり推進課 ☎0194-78-2963  
会長 久慈 士郎 ☎090-5567-5795

けて歩いて帰宅しました。帰り道、途中から振り返って見る南浜、雄大な十府ヶ浦の景色が鮮やかに脳裏に残っています。

野田中学校の事で思い出すことは、冬の薪ストーブの焚きつけ用に、枯れた杉の葉を一人一俵づつ背負って登校した事、学校農園の堆肥作りのために、秋の1日をかけて学校中で落ち葉を集めた事等々 普段ではできない貴重な体験をしてきたことです。また、3年生の運動会での仮装行列では、いろいろな時代の衣装を身にまとい、クラス全員でぞろぞろ歩いたことも思い出します。

当時の玉川鉾山には、「野田玉川鉾山」と言う社会人野球チームがあつて、選手の方は3時半頃から毎日のように近くのグラウンドで練習をしていました。日曜日などには、盛岡鉄道、釜石製鉄など県内外の強豪社会人野球チームが野田玉川に来て、練習試合をしていました。私も球場で場内アナウンスのお手伝いをさせてもらったこともありましたが、この頃は、娯楽と言ってもあまりなく、ノンプロの社会人野球チームの試合の観戦は最高の贅沢な娯楽のようでした。野田はもとより近郷から沢山の人が集まって、野球観戦していました。



▲旧野田中学校校舎（昭和38年頃）



玉川鉱山では、マンガンの原石を採鉱して、それをダンプカーで久慈港まで運んでいました。私たちの住んでいた社宅は、十数軒くらいだったでしょうか。近くに広場があり、そこを囲むように共同浴場、床屋さん、事務所を兼ねた購買所などがありました。普段の生活圏は主にそのエリアでした。

昭和38年3月に野田中学校を卒業して、4月から久慈高等学校普通科に通い始めたのですが、5月に母が秋田市の病院に入院したので、一学期だけ通った久慈高校から秋田北高校へ転校しました。一学期間しか在学しな



▲玉川鉱山野球部の試合の様子（提供：てしごと屋）

かったのですが、親しい友人ができて、現在も連絡を取り合っています。久慈高校の短い間での思い出は、春の高校野球地区大会で選手入場のプラカードを持たせてもらったことです。高2の夏には、父がまだ玉川鉱山に勤めていたので、玉川に行き、友達と懐かしく会っていました。高校卒業後は、秋田市内の金融機関に勤め、弟の大学入学を機会に上京しました。立川市の現在地には昭和50年から住んでいます。

今から30年近く前になります。私の三男の通学していた早稲田実業高校で、数年間にわた



▲玉川鉱山坑道（提供：てしごと屋）

り「岩手について」をテーマとして研修旅行での調査をしました。盛岡を拠点として各地に行ったらいいのですが、あるグループは野田村へ行き、野田村役場の職員からお祭りのことなど色々伺ってきたとお話を聞き、とても懐かしく思ったものです。

3年間しか住んでいませんでしたが、多感な時期を過ごした野田村は私の第二の故郷と思っています。東日本大震災では大きな被害を受けましたが、徐々に復興していると伺っています。第二の故郷・野田村がいつまでも美しい所であってほしいと心から願っています。



▲現在、旧玉川鉱山は観光坑道として利用しています

## 野田はまなす会へ入会

保角 卓哉



根井地区出身  
野田中昭和45年卒

野田はまなす会の皆さん、初めまして。この度、野田はまなす会に入会させていただいた保角卓哉です。私は、昭和30年に根井で生まれて、根井で育ちました。玉川小学校に入学して、昭和42年3月に卒業しました。そして、昭和45年3月に野田中学校を卒業しました。

小中学校の頃を思うといろいろなことが思い出されます。根井地区から玉川小学校まで、約3kmほどの距離でした。その頃の通学路は、獣道みたいな感じの所があって、低学年の頃は怖くて、遠くて、通学も大変でした。当時は玉川鉱山が全盛期だったので、同級生も多く、児童数は33名でクラスメイトも多かったです。楽しい思い出も沢山ありました。

野田中学校時代の部活動は柔道部でした。監督は村田先生でとても怖かった記憶があります。その頃の親友は大沢君で、よく野田の中心街で遊んでいました。



▲現在でも根井地区では養豚が盛んです

そこは、愛宕町だったか、確か福士食堂と言う店があって、ラーメンなどよく食べていました。大沢君とはその近くが主な遊び場所でした。

私の住んでいた根井地区の6割近くの家庭は、開拓団として山形県から入植した方々です。私の両親も同じです。振り返って見ると、農業だけでは思うように生活ができず、多くの家は、養豚や酪農などの兼業でした。一貫経営ができるようになり、私も、約6年間、養豚農家としてやっていました。しかし、訳あって25才の時離農しました。



▲現在の十府ヶ浦（米田浜）

酪農、養鶏と同じように、私の家の養豚業も相手が生き物です。ので、365日休みが無く働かなければならないので、大変苦労の多い仕事でした。

野田に住んでいるとき、大型自動車運転免許や牽引免許を持っていたので、離農のあと、久慈職業安定所の紹介で、トレーラ運転手として、東京都内の運送会社に就職する事にしました。現在は神奈川県座間市に住んでいます。当時生活していた根井の家は今はありませんが、近くに姉が住んでいます。

25才まで生活し、生まれ育った故郷野田村の景色が一番好き



▲新しい防潮堤からの眺め（前浜）  
※散歩される人もよく見かけます。

な場所は、十府ヶ浦の海です。この雄大な景色を見ていると、どんなことがあっても、心が和みます。釣りが好きで、中学生の頃下安家川で川釣りしたことをよく思い出します。しかし、311の被災を思うと、今も心が痛いです。

ある時まで、野田に帰省すると十府ヶ浦にあるラーメン屋に必ず行って、磯ラーメンを食べていました。懐かしいです。両親が亡くなり、野田に帰ることも無くなり、野田の現状がよく分かりません。この歳になって故郷野田村のことを懐かしく、よく思い出します。



▲東日本大震災に負けなかったハマナスの群生地(米田浜)



# 野田中学校の紹介

野田村立野田中学校長  
勝部 孝行

ふるさとを離れ、全国各地でご活躍されている皆さまに、現在の野田中学校の様子をご紹介する機会をいただき感謝申し上げます。とても真面目で素直な生徒たちと、生徒のために一生懸命に働く先生方、そして、それを支える保護者や地域の方々によって、野田中学校は元気に頑張っています。

## 一 本校の教育目標

「主体的に学び、豊かな心のつな  
がりを育み、地域の未来を担う  
たくましい生徒の育成」



▲野田中学校正面玄関

## 二 全校生徒及び教職員数

男46人 女48人 計94人  
教職員22人

## 学年別生徒数

| 学年 | 男   | 女   | 計   |
|----|-----|-----|-----|
| 1年 | 17人 | 15人 | 32人 |
| 2年 | 16人 | 16人 | 32人 |
| 3年 | 13人 | 17人 | 30人 |
| 計  | 46人 | 48人 | 94人 |

## 地区別生徒数

| 地区                | 人数  |
|-------------------|-----|
| 城内上（北区・愛宕町）       | 10人 |
| 城内中（門前小路・前田小路・横町） | 18人 |
| 城内下（本町・旭町）        | 2人  |
| 南浜                | 4人  |
| 新山                | 21人 |
| 明内・横町             | 7人  |
| 中平                | 7人  |
| 玉川・下安家            | 10人 |
| 米田                | 8人  |
| 泉沢                | 7人  |

## 三 野田中学校の復興教育

本校の生徒の合い言葉は「野田村の太陽になろう」です。東日本大震災津波後、深い悲しみや絶望感が村全体を覆う中、自分たちは何もできないけれど、せめて元気に頑張る姿を見せようという使命感を抱いた生徒たちは、この言葉を掲げました。

以来、この言葉に込めた想いをカタチにすべく、様々な取り組みを重ねてきました。

地域の教育に対する期待は高く保護者をはじめ地域の方々の学校に寄せる関心や協力は大きいものがあります。子どもたちは地域の希望であり、地域の宝です。また、学校は地域の要でもあることから、生徒や地域の方々の想いを大切に受け止め、生徒一人ひとりを「野田村の太陽にしよう」という気持ちをもって、全ての物事を発想し、構想・展開していくことが、私たち教職員の務めであると思っています。

本校では、岩手県の復興教育の方針を受け、「ふるさと野田村を愛し、その復興・発展を支える人材の育成」を目指して、これまで地域の素財や外部の人財を効果的に活用した教育活動「太陽プロジェクト」を展開してきました。地域の未来を担う「ひとづくり」が本校の使命であり、学校・家庭・地域が協働して教育活動の充実を図っています。

## 四 総合学習の取組

総合的な学習の時間では、震災前の村の様子、震災から今日までの村の復興の様子、そして村の将来について考える学習を、学年ごとにテーマを設定し体験的に行っています。昨年には新型コロナウイルス感染症の影響

## 五 創作太鼓の取組

本校では、その年の三年生を「〇代目」と呼んでいます。震災後に取り組み始めた野田中創作太鼓は、令和三年度の三年生で九代目となりました。この「〇代目」という呼称は、代々受け継いできたという「縦のつながり」とともに、その学年の「横のつながり」という二つの絆を表したものであり、毎年2月に行われる「3年生を送る会」感謝と決意の会」で襲名することと生徒たちは伝統を引き継ぎ更に発展させていこうとする決意を新たにしています。



▲野田中創作太鼓

現在在籍している生徒たちは、震災当時は年少以下の幼児だったため、震災の直接的な記憶をほとんど持っていません。そうした中、創作太鼓の取組を通して、その日の出来事やふるさと

## 六 部活動の様子

本校にある部と部員数、今年度の主な大会での成績を紹介します。（個人については、久慈地区内で一位だったもののみ掲載します）

| 部活動            | 部員数 | 主な大会での成績                      |
|----------------|-----|-------------------------------|
| 野球部（22人）       | 22人 | 県少年軟式野球大会ベスト8                 |
| 男子ソフトテニス部（16人） | 16人 | 地区中総体 第3位                     |
| 女子ソフトテニス部（13人） | 13人 | 地区中総体 第3位                     |
| バレーボール部（15人）   | 15人 | 地区中総体 優勝                      |
| 柔道部（9人）        | 9人  | 地区中総体 団体第2位<br>個人第1位          |
| 吹奏楽部（19人）      | 19人 | 地区吹奏楽コンクール 金賞<br>県吹奏楽コンクール 金賞 |
| 吹奏楽部（19人）      | 19人 | 地区吹奏楽コンクール 金賞<br>県吹奏楽コンクール 金賞 |

## 七 行事の様子

本校では、一学期の体育祭、二学期の文化祭、三学期の三送会を三大行事とし、一人ひとりの生徒の活躍の場を大切にしながら集団としての力の向上を目指しています。

今年度五月に行われた体育祭では、三年生が全校のリーダーとして下級生を引っ張り、競技で、応援で、そして野田中ソーランで激しい戦いを繰り広げました。「野田中の太陽」として自分たちが頑張っている姿を通して、野田村に元氣と笑顔を与えたいという思いが伝わる行事と



▲体育祭の様子  
（上：野田中ソーラン、下：大縄跳び）

なりました。



▲発表の様子

響で制限はありますが、野田村に生きるものとして必要な活動については、地域の方々の協力を得て継続して行っています。学習の成果については、秋に行われる文化祭で、全校生徒・保護者・地域の方々に向けて発表しています。

【各学年の主な学習内容】

一学年テーマ「私たちの野田村を語れる人間になろう」

村の特徴や良さを探す遠足、津波防災講座、地域産業の学習、塩の道講演会等を通して、村の魅力を学んでいます。

二学年テーマ「私たちの野田村を発信しよう」

震災復興学習、職場体験学習等の経験を踏まえて、村の農産物や海産物等を宿泊研修先で一般販売し、村をアピールしています。

三学年テーマ「私たちの野田村を創ってこう」

復興講演会、三陸沿岸道路の学習、異世代交流等を通して、村の課題について考え、その解決策を模索しながら、村の将来像をまとめていきます。

## 八 教育環境の整備

エアコンの設置

近年は、野田村でも夏になると連日猛暑が続き、授業は汗だくになりながら行っている状態でした。昨年度から教室にエアコンが設置され、快適な環境で授業が行われています。



▲教室の様子  
（上：教室に設置されたエアコン  
下：タブレットを使った学習）

一人一台タブレットの導入  
国のGIGAスクール構想に基づいて、野田村ではいち早くタブレットの導入が行われました。授業や行事等の際、効果的に使っています。





野田村の名峰「和佐羅比山」山頂からの村全景



十府ヶ浦（米田浜） 小豆砂が波で踊る

## 野田村の風景

ふるさと野田村の風景から村の話題を紹介します。



下安家地区の橋りょう工事の様子です。見た目はほとんど完成。奥に見える三鉄の線路と国道45号線、村道の橋りょうと合わせると4本の橋が架かっています。

◀下安家地区の橋りょう工事の様子



I-C建設場所の工事の様子です。久慈工業高校への道路と県道野田山形線との交差点付近に完成予定です。  
※写真奥のバックネットが久慈工業高校グラウンドです。

◀野田I-C工事の様子（下明内地区）

**三陸沿岸道路今年度全線開通**

三陸沿岸道路は今年度全線開通予定となっております。本村の工事の様子とI-C（インターチェンジ）の場所を紹介します。



▲新校舎建設予定地



▲現野田小学校校舎

**村民の声を新野田小学校舎へ**

令和4年に築50年を迎える野田小学校。老朽化によって移転が計画されており、移転後の新校舎について住民の意見を取り入れるために村民ワークショップが繰り返し開催されています。新校舎は野田中学校側に建設予定となっています。

**あとがき**

◆この度の東京オリンピック、いかがでしたか？筆者が初めて上京した57年前は、東京五輪。全国民、老若男女が両手を挙げてのお祭り騒ぎでお祝いのを思い出します。

◆野田はまなす会では、残念ながら去年、今年とコロナウイルス感染拡大の影響により活動が十分にできておりません。なんとか会報の発行は続けており、飯田さん、保角さんの協力で会員の声を届けることもできました。今号ではふるさと野田村の今の様子を写真で多く紹介しました。

◆野田中学校の勝部校長先生には、生徒の活躍の様子を寄稿いただき、後輩の頑張りに元気をもらえます。勝部先生や声をお寄せいただいたお二人に心から感謝いたします。

◆今から100年前の1918年から1920年にかけて世界的に大流行したスペイン風邪（インフルエンザウイルス）は、世界で死者が5000万人、日本でも45万人とも言われています。

◆此度の新型コロナウイルスの世界での感染者数は2億人を超え、死者数は約450万人です。日本での流行から一年半。いい加減に終息してほしいです。ふるさと野田村の美味しい空気を吸いに早く帰省したいです。（S.S）